

成人看護学援助技術	3年・後期	1単位 15コマ	教授 本吉 美也子 他
科目カテゴリー	看護提供のあり方	科目ナンバリング	33210663

1. 授業のねらい・概要

本科目は、健康障害および機能障害を持つ成人の看護実践に必要な、アセスメント能力と看護過程展開の各段階において必要な援助技術、看護機器の取り扱いについて学習する。

2. 学修の到達目標

1. 疾患に応じた患者の問診とフィジカルアセスメントができる。
2. 成人期の患者の心身の問題を理解し、看護の役割と援助のあり方を理解できる。
3. 患者の看護問題を把握し、具体的援助方法を立案・実施できる。
4. 看護要約について理解できる。
5. 生体情報モニターの役割や使用法を理解できる。
6. ストーマケアや胸腔ドレナージなど、成人看護学で必要な看護技術について理解できる。
7. 危険予知トレーニング方法を用いて、実施しようとする看護援助の危険予知について理解できる。

3. 授業の進め方

講義および演習を中心に行う。演習はA・B、2グループに分けて実施する

4. 授業計画（演習）

回	授業内容	授業形態	事前事後学修（学修課題）	担当
1・2	・本科目の学習内容について ・事例患者のアセスメント項目と看護問題の抽出	講義	予習:フィジカルアセスメントの項目をテキストで確認しておく。 復習:事例のアセスメントに必要な項目を整理する。	本吉美也子 石井みゆき
3・4	・演習①:バイタルサイン測定、フィジカルアセスメント、問診 ・演習②:胸腔ドレナージ、ストーマケア	演習	演習① 予習:事前配布資料に事例患者に必要な観察項目を考え記入してくる。 復習:演習を振り返り自己の課題を明らかにする。	演習① 本吉・石井
5・6	・演習②:胸腔ドレナージ、ストーマケア ・演習①:バイタルサイン測定、フィジカルアセスメント、問診	演習	演習② 予習:胸腔ドレナージとストーマの管理をテキストで確認する。 復習:胸腔ドレナージを受ける患者の看護を振り返る。	演習② 片貝智恵 助手
7・8	・演習の振り返り ・事例に必要な看護援助の組立て ・看護要約について	講義	予習:事例に必要な看護援助を整理してくる。 復習:演習の振り返りから自己に不足していた技術を再確認する。	本吉・石井
9・10	演習③:成人看護で必要な看護技術 演習④:生体情報、ストーマケア	演習	演習③ 予習:事例患者の清潔援助を組み立てる。 復習:演習を振り返り自己の課題を明らかにする。	演習③ 本吉・石井
11・12	演習④:生体情報、ストーマケア 演習③:成人看護で必要な看護技術	演習	演習④ 予習:ストーマ装着を体験する。 復習:演習を振り返り、自己の課題を明らかにする。	演習④ 片貝・助手
13・14	危険予知トレーニング	演習	予習: https://chugai-pharm.jp/contents/za/039/02/ を読み、危険予知トレーニングと効果について理解しておくこと。 復習:演習で行った事例について、一人でKYTを行い理解を深めること	千明政好
15	家族が抱える看護問題とケア	講義	予習:救急患者家族の特徴を調べておくこと。 復習:家族のニーズについてまとめ理解を深めること	千明

5. 成績評価の方法・基準

評価は、定期試験（50%）、平常点・課題レポート（50%）を基準として総合的に評価する。
演習科目なので4/5以上の出席がない場合、定期試験の受験資格はない。

6. テキスト・参考文献

テキスト：1) 山下香枝子他編著：系統看護学講座専門Ⅱ成人看護学[2]呼吸器[3]循環器[5]消化器
[6]内分泌・代謝[7]脳・神経，医学書院。

2) 任和子他編著(2015)：実習記録の書き方がわかる看護過程展開ガイド-ヘンダーソン・
ゴードン・NANDAの枠組みによる，照林社。

3) リンダJ.カルペニート=モイエ著，新道幸恵監訳：看護診断ハンドブック，医学書院。

参考文献：随時紹介する

7. 準備学習に必要な時間，又はそれに準じる程度の具体的な内容

シラバスの授業計画の範囲について，1時間の予習と1時間の復習を必要とする。

8. 受講上の留意事項

急性期成人看護学実習の先修科目である。

9. 課題に対するフィードバックの方法

試験終了後，口頭または掲示で解答や解説を周知する。

10. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連

必修科目であり，修得できない場合進級不可となる。

11. 該当する本授業は，以下の実務経験を活かして実施される

医療機関における看護師としての実務経験を活かして，指導を行う。